

大学での講義と実習

栃木県獣医師会では、飼育担当の教員を対象に、毎年、県内各地で研修会を実施していますが、これから教師になる学生を対象にした講義と実習も毎年行っています。

県内の教育学部がある大学、宇都宮大学、作新大学、白鷗大学の3校で、生活科概論の授業の一枠をいただき、講義と実習を実施しています。

全国的に見ても、県内すべての大学でこのような活動を実施しているのは、栃木県のみようです。

その反応は、小学一二年生で実施するふれあい教室の子供さんたちと同じ反応で、ウサギとのふれあいで「癒し」を感じているようです。



2014年の白鷗大学での講義と実習風景

Topics



ふれあい教室の効果

小学校での動物飼育は、継続的、計画的な飼育活動を長期的に行うことにより、より効果的に良い影響を与えることができるものですが、その最初の活動である「ふれあい教室」の効果も、絵によって感じることができるようです。

同じ子供さんの「ふれあい教室」前(上図)と後(下図)を較べると、その変化が明らかですね。



みんなの がっこうのどうぶつ

第16号 2015年11月上旬



印刷はA4横



公益社団法人 栃木県獣医師会
学校飼育動物委員会

〒320-0032 栃木県宇都宮市昭和1-1-23
☎ 0286(22)7793 Fax0286(21)9660

[栃木県獣医師会](#) [学校飼育動物委員会](#)

根拠に基づく動物飼育

家禽類

家禽(かきん)とは、人工的に飼育、繁殖されている鳥類を意味します。代表的な家禽としては、ニワトリ、チャボ、烏骨鶏などがあげられます。

中でもニワトリの飼育の歴史は古く、かつては動物飼育の主役でした。

しかし、高病原性鳥インフルエンザの発生を受け、飼育を避けるようになり、急激に飼育頭数が減少しています。

◆ 長所

- 抱くと温かい
- 自然に近い環境で飼育できる
- オス、メスの区別がしやすい
- 日本固有種である(チャボ)
- つがいが群れの最小単位
- 産卵、抱卵からふ化を観察できる
- 哺乳類と違った特徴を観察できる

◆ 短所

- 鳴き声が周辺に響く
- 室内飼育に向かない
- 増えすぎることがある
- 体調の変化を見つけにくい
- 警戒心から攻撃的になることがある

チャボは、江戸時代から続く日本の伝統的な家禽です。天然記念物に指定されている種類もあります。

種の保存の意味でも、小学校での飼育が期待されています。

短所を補う

- ◆ 鳴き声が周辺に響く([関連新聞記事](#))
- ◆ 室内飼育に向かない

オスもメスも鳴くようですが、朝鳴くのはオスの方が多いようです。オスの数を1羽に限定すると鳴く頻度は下がることでしょう。

また、飼育小屋を中庭に設置したり、大きめのゲージで夜から朝にかけては室内で、ゲージを段ボールなどで囲い、夜の状態を作り飼育をするのも良いでしょう(飼育委員会が登校したら段ボールを取り外し、「朝」を調整する工夫です)。
- ◆ 増えすぎることがある

産卵、ふ化を観察できることは、ニワトリ飼育の一つの長所ですが、無尽蔵に増えることは望まれないところです。

毎朝、飼育小屋を観察し、産み落とされた卵があれば、その卵を回収することで増えることを防ぐことができます。
- ◆ 体調の変化を見つけにくい

ニワトリに限らず鳥類は、体調の変化が急激です。羽を膨らませてじっとしていたり、トサカの色が悪かったり、下痢をしてお尻付近が汚れているなどの症状を注意深く観察し、わずかな変化でも発見した場合には、あまり長く様子を見ることなく、獣医師に相談する必要があります。
- ◆ 警戒心から攻撃的になることがある

チャボは比較的温厚な性格ですから、チャボを選択することをお勧めします。

それでも、抱卵期のメスは警戒心が強くなりますので、不用意に警戒心をあおるような事を避けるように配慮することが大切です。



高病原性鳥インフルエンザの発生報告以来、急激に飼育頭数が減少していますが、正しい飼育を行うことで、問題なく飼育を継続できます。

多くの意味合いを含め、家禽類の飼育は継続される必要があるでしょう。

ウサギをもらってください

宇都宮の小学校と栃木市の小学校で、ウサギが増えすぎて困っています。もらっていただける小学校、先生、ご家庭を募っています。獣医師会事務局までご連絡ください。



画像は内容と関係ありません